

令和7年度（2025年度）

令和7年度温室効果ガス排出状況一覧

活動の区分		単位	活動量	二酸化炭素(CO ₂)			メタン(CH ₄)			一酸化二窒素(N ₂ O)			ハイドロフルオロカーボン(HFC)			排出量 t-CO ₂
				排出係数 kg-CO ₂ /L, m ³ , kWh, t	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-CH ₄ /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-N ₂ O /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	排出係数 kg-HFC /台	温暖化 係数	CO ₂ 換算値 kg-CO ₂	
				①	②	③	④= ①×②×③	⑤	⑥	⑦= ①×⑤×⑥	⑧	⑨	⑩= ①×⑧×⑨	⑪	⑫	
燃料の使用	ガソリン	L	272	2.32	1	631	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	灯油	L	57,631	2.49	1	143,501	—	—	—	—	—	—	—	—	—	144
	軽油	L	44,668	2.58	1	115,243	—	—	—	—	—	—	—	—	—	115
	プロパンガス	m ³	84	6.55	1	550	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
電気の使用	電力	kWh	393,617	0.380	1	149,574	—	—	—	—	—	—	—	—	—	150
エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)				—	—	409,499	—	—	—	—	—	—	—	—	—	409
一般廃棄物の焼却	廃プラスチック量 (合成繊維以外)	乾t	17,790	2,765	1	49,189,350	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49,189
非エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)				—	—	49,189,350	—	—	—	—	—	—	—	—	—	49,189
一般廃棄物の焼却	全量	湿t	74,123	—	—	—	0.00095	28	1,972	0.056700	265	1,113,735	—	—	—	1,116
車両の走行	普通・小型乗用車 (ガソリン)	km	2,866	—	—	—	0.000010	28	1	0.000029	265	22	—	—	—	0.0
	軽貨物(ガソリン)	km	673	—	—	—	0.000011	28	0	0.000022	265	4	—	—	—	0.0
	普通貨物(軽油)	km	76,908	—	—	—	0.000015	28	32	0.000014	265	285	—	—	—	0.3
	特種用途車 (軽油)	km	13,811	—	—	—	0.000013	28	5	0.000025	265	91	—	—	—	0.1
封入カーエアコンの使用		台	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01	1,300	156	0.2
メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン				—	—	—	メタン(CH ₄)		2,010	一酸化二窒素(N ₂ O)		1,114,137	ハイドロフルオロカーボン (HFC)		156	1,116
合 計																50,715

※ 活動量、CO2換算値(kg-CO2)は小数点未満四捨五入。
(参考) 他社から供給された電気の使用に伴う排出係数は、令和7年度はアーバンエナジー株式会社「0.380kg-CO2/kWh」

令和7年度（2025年度）

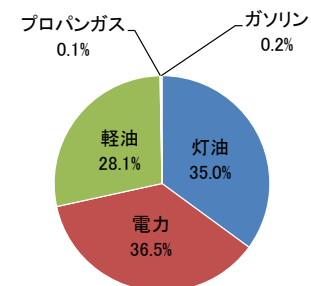
1 エネルギー起源CO₂の排出状況

エネルギー種	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
灯油	144	35.0
電力	150	36.5
軽油	115	28.1
プロパンガス	1	0.1
ガソリン	1	0.2
合計（エネルギー起源CO ₂ 排出量）	409	100

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

【中間年度（令和7年度）及び目標年度（令和12年度）目標】	545t-CO ₂
-------------------------------	----------------------

※基準年度（平成26年度）実績：1,040t-CO₂



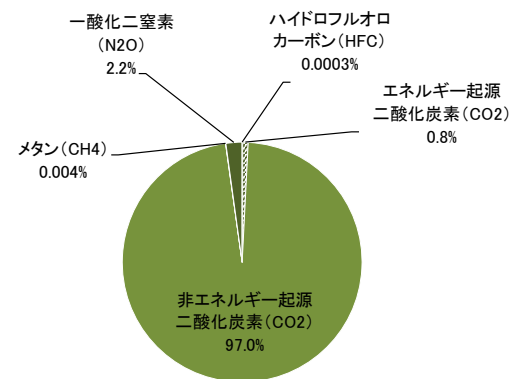
2 対象ガス別の割合

要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	409	0.8
非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)	49,189	97.0
メタン (CH ₄)	2	0.0
一酸化二窒素 (N ₂ O)	1,114	2.2
ハイドロフルオロカー ボン (HFC)	0	0.0
合計（温室効果ガス総排出量）	50,715	100

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

【中間年度（令和7年度）までに基準年度比4%削減】	31,089t-CO ₂ 以下
---------------------------	----------------------------

【目標年度（令和12年度）までに基準年度比8%削減】	29,794t-CO ₂ 以下
----------------------------	----------------------------

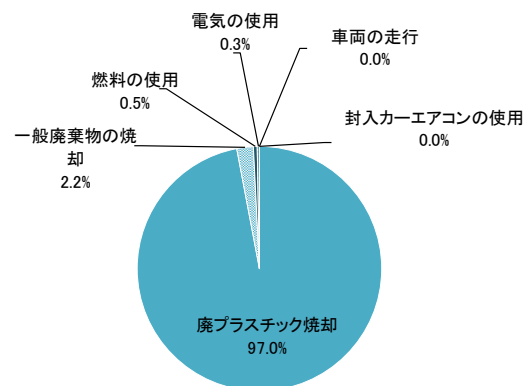


3 活動別CO₂排出割合

要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
廃プラスチック焼却	49,189	97.0
一般廃棄物の焼却	1,116	2.2
燃料の使用	260	0.5
電気の使用	150	0.3
車両の走行	0	0.0
封入カーエアコンの使用	0	0.0
合計	50,715	100

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

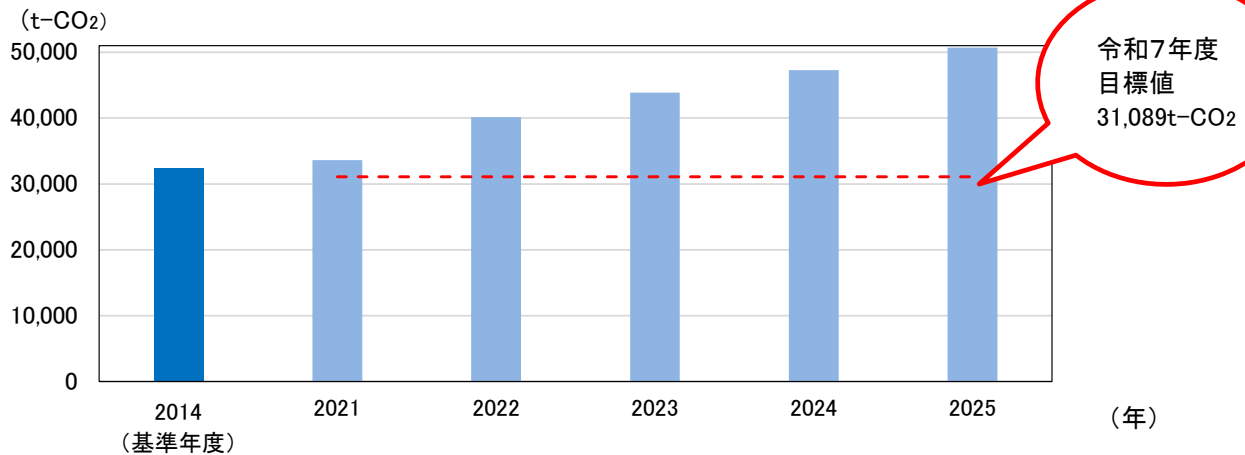
発電量(kWh)	48,341,580	発電量(t-CO ₂)	18,370
売電量(kWh)	36,973,142	売電量(t-CO ₂)	14,050



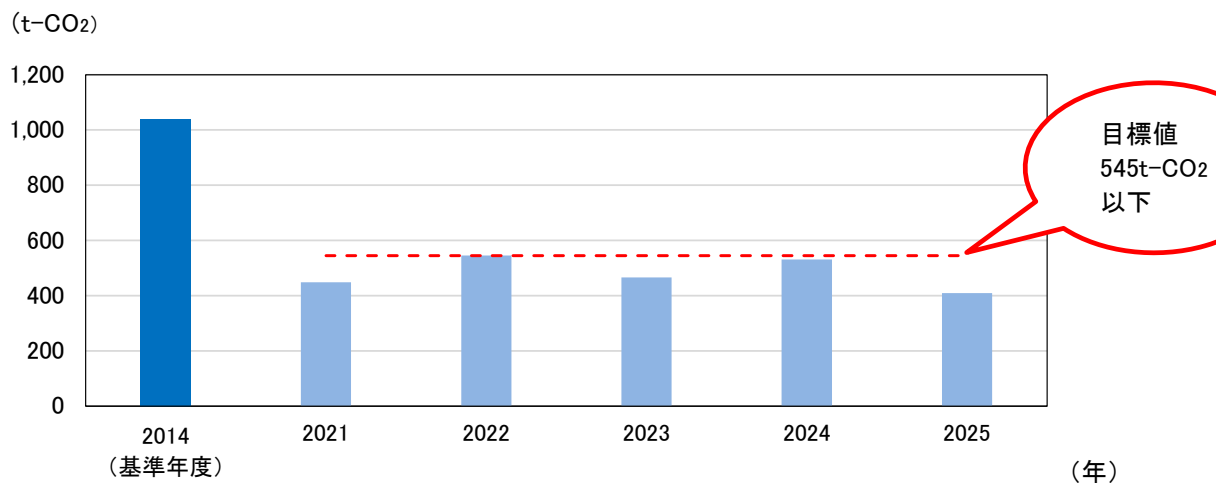
経年グラフ（温室効果ガス総排出量・エネルギー起源二酸化炭素排出量）

t-CO ₂ /年	2014 (基準年度)	2021	2022	2023	2024	2025
温室効果ガス総排出量	32,385	33,610	40,161	43,868	47,295	50,715
基準年度比	100%	104%	124%	135%	146%	157%

※令和7年度(2025年度)目標値は31,089t-CO₂以下



t-CO ₂ /年	2014 (基準年度)	2021	2022	2023	2024	2025
エネルギー起源 二酸化炭素排出量	1,040	448	545	466	531	409
目標値に対する実績 (2019年度排出量以下) 【545t-CO ₂ 以下】	-	82%	100%	86%	97%	75%

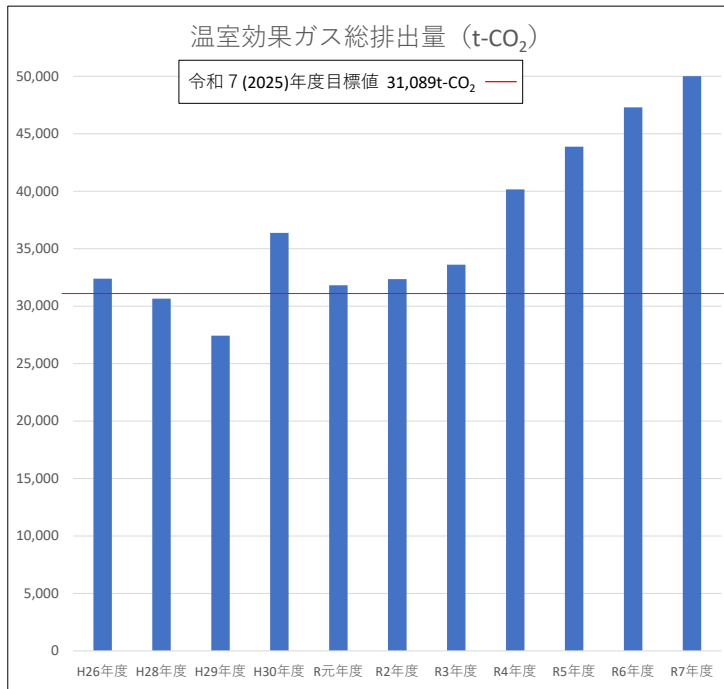


※ 第2次ふじみ衛生組合地球温暖化対策実行計画(計画期間:令和3(2021)～令和12(2030))の中間見直しを行い、令和8(2026)年3月に第3次計画(計画期間:令和8(2026)～令和12(2030))を策定し、令和12(2030)年度の目標値等を改定しています。

ふじみ衛生組合の温室効果ガス排出量及び稼働実績

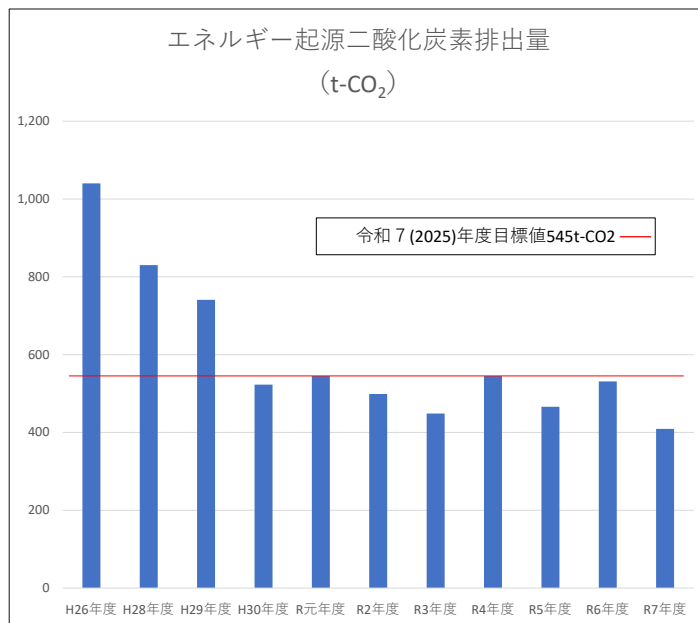
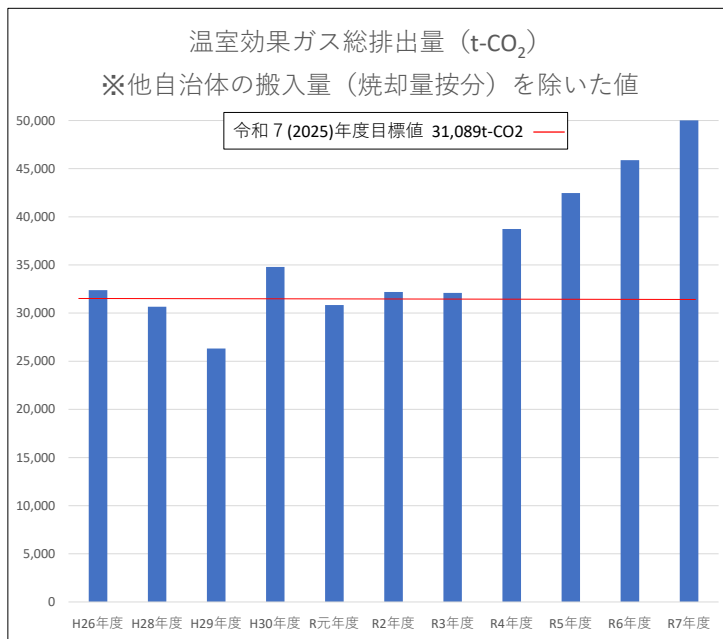
	H26年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
温室効果ガス総排出量 (t-CO ₂)	32,385	30,653	27,430	36,373	31,811	32,343	33,610	40,161	43,868	47,295	50,715
温室効果ガス総排出量 (t-CO ₂) ※他自治体の搬入量(焼却量按分)を除いた値	32,385	30,653	26,313	34,798	30,836	32,188	32,096	38,727	42,463	45,875	50,705
エネルギー起源二酸化炭素排出量 (t-CO ₂)	1,040	830	741	523	545	499	448	545	466	531	409
可燃ごみ搬入量 (t) (他自治体分含む)	69,881	68,756	72,117	73,009	74,256	74,341	77,056	74,777	72,675	75,746	74,042
他自治体からの搬入量(t)	-	-	3,070	3,207	2,314	362	3,519	2,707	2,352	2,301	15
可燃ごみ焼却量 (t)	71,693	68,213	70,699	74,461	71,512	72,838	75,848	75,355	73,309	71,024	74,123
燃焼ごみ中の廃プラスチック類の比率(%)	19	19	16	21	19	19	19	23	26	29	30
発電量 (MWh)	37,189	34,967	37,229	40,979	39,296	40,838	42,020	41,344	40,160	43,485	47,694
可燃ごみ焼却量1t当たりの発電量 (kWh/ごみt)	519	513	527	550	550	561	554	549	548	612	643
売電量 (MWh)	26,756	25,483	27,430	30,231	29,075	30,538	31,868	30,790	29,861	33,357	36,973
売電によるCO ₂ 削減量 (t-CO ₂) (※)	10,488	9,989	10,423	11,488	11,049	11,604	12,110	11,700	11,347	12,676	14,050

※電気事業者別排出係数(R7年度実績)のアーバンエナジー(株)の基礎排出係数(0.380t-CO₂/MWh)を用いて各年度算出した場合



【令和7年度の所見(温室効果ガス総排出量)】

- ①基準年度(平成26年度)実績比57%の増となった(参考:令和6年度比7%増)。増加した要因として、燃焼ごみ中における廃プラスチック類の比率が、基準年度(平成26年度)は19%であったが、令和7年度は30%と11ポイント上昇(約6割増)したことがあげられる。(仮称)新リサイクルセンター更新に伴い、令和6年8月から、プラスチック全量を焼却、同年10月からペットボトルの半量を焼却している。
- ②廃プラスチックの焼却及び一般廃棄物の焼却に伴うCO₂排出割合が99%を占めている。
- ③新たなリサイクルセンターが稼働すると、プラスチックのリサイクル率が高くなるため、CO₂排出量を7,400t-CO₂削減(リサイクルセンター整備実施計画(R5.8策定))できる見込みである。



【令和7年度の所見（エネルギー起源CO₂排出量）】

- ①目標値（545t-CO₂以下）を達成した。
 - ②水銀制御システムを平成30年度から本格稼働したことにより、排ガス中に含まれる水銀が規制値を超えた際に行う焼却炉の緊急停止が無くなり、焼却炉の立上げに使用する灯油使用量が大きく減少した。
 - ③焼却炉立上げの際の運転方法を、自動プログラムから手動による空気量調整を行い、炉内温度を早く上げられるよう運用改善したことから、灯油使用量を削減できた。
- ※②～③の実施により、灯油使用量は基準年度（平成26年度）比67%減
- ④令和7年1月からリサイクルセンター中央棟の解体工事が始まり、都市ガスの使用が無くなった。
 - ⑤買電量は、令和6年度は12年に1回のボイラ蒸気過熱器の更新があり、発電機停止日数が32日あったが、令和7年度は25日となり、前年度比7日減ったことから買電量が減少した。また令和7年1月からリサイクルセンター中央棟の解体工事が始まり、リサイクルセンターの買電使用量が前年度と比較し84%減となった。これらのことから、買電量全体として前年度比40%減少した。